議第 85 号

下呂市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例
について

上記の条例を別紙のとおり定めることについて、議会の議決を求める。

令和 7 年 9 月 2 日提出

下呂市長 山 内 登

提 案 理 由

災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）の一部改正に伴い、当該条例の一部を改正するもの。

下呂市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例

下呂市消防団員等公務災害補償条例(平成16年下呂市条例第151号)の一部を次のように改正する。

改 正 後	改 正 前
<p>(特殊公務に従事する非常勤消防団員及び非常勤水防団員の特例)</p> <p>第18条の2 非常勤消防団員又は非常勤水防団員がその生命又は身体に対する高度の危険が予測される状況の下において、火災の鎮圧又は暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、津波、<u>地盤の液状化</u>その他の異常な自然現象若しくは火災、爆発、その他これらに類する異常な事態の発生時における人命の救助、その他の被害の防御に従事し、そのため公務上の災害を受けた場合における当該災害に係る傷病補償年金、障害補償又は遺族補償については、第8条の2第2項、第9条第3項若しくは第4項又は第12条第1項の額は、それぞれ当該額に100分の50(傷病補償年金のうち、第1級の傷病等級に該当する障がいに係るものにあつては100分の40、第2級の傷病等級に該当する障がいに係るものにあつては100分の45、障害補償のうち、第1級の障害等級に該当する障がいに係るものにあつては100分の40、第2級の障害等級に該当する障がいに係るものにあつては、100分の45)を乗じて得た額を加算した額とし第16条の2第1項の額は、同項本文に規定する額に100分の50を乗じて得た額を加算した額(第16条第2号の場合にあつては、その額から既に支給された遺族補償年金の額を控除した額)とする。</p>	<p>(特殊公務に従事する非常勤消防団員及び非常勤水防団員の特例)</p> <p>第18条の2 非常勤消防団員又は非常勤水防団員がその生命又は身体に対する高度の危険が予測される状況の下において、火災の鎮圧又は暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、津波その他の異常な自然現象若しくは火災、爆発、その他これらに類する異常な事態の発生時における人命の救助、その他の被害の防御に従事し、そのため公務上の災害を受けた場合における当該災害に係る傷病補償年金、障害補償又は遺族補償については、第8条の2第2項、第9条第3項若しくは第4項又は第12条第1項の額は、それぞれ当該額に100分の50(傷病補償年金のうち、第1級の傷病等級に該当する障がいに係るものにあつては100分の40、第2級の傷病等級に該当する障がいに係るものにあつては100分の45、障害補償のうち、第1級の障害等級に該当する障がいに係るものにあつては100分の40、第2級の障害等級に該当する障がいに係るものにあつては、100分の45)を乗じて得た額を加算した額とし第16条の2第1項の額は、同項本文に規定する額に100分の50を乗じて得た額を加算した額(第16条第2号の場合にあつては、その額から既に支給された遺族補償年金の額を控除した額)とする。</p>

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

【参考資料】

下呂市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例
要綱

1. 改正理由

災害対策基本法（昭和 36 年法律第 223 号）の一部改正に伴い、当該条例の一部を改正するものです。

2. 概要

（1） 災害の定義において、異常な自然現象の例示として「地盤の液状化」を追加します。

（第 18 条の 2 関係）

（2） この条例は、公布の日から施行します。

（附則関係）